

みなぼーと新潟

Vol.4

2008 春

<特集>
●新潟港の開港事情

<特集>
●湊町の風情

<みなとまち再発見!!>
●「銅像」・「石碑」めぐり

<みなと物知り博士>
●みなとオアシス

<コラム みなと今昔>
●新潟港の北洋漁業

<みなぼーと広場>
●新潟港ビデオ上映会始まる



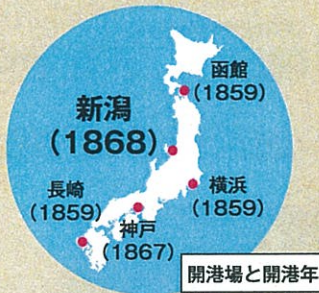
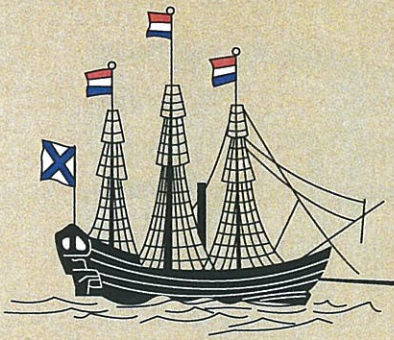
表紙イラスト/大橋 奈都美
(JAM日本アニメ・マンガ専門学校
デジタルイラスト科2年)

【NPO法人新潟みなとクラブの主な活動】

- 広報誌「みなぼーと新潟」の発行
- 「みなと」の文化・歴史に関する展示会の開催
- 講演会、学習会を開催し、みなとまちづくりについて学ぶ
- みなとの利用、活用に関する要望のヒアリング
- みなとに関する調査・研究
- ◆みなとまち新潟を愛し、みなとまちづくりに参加したいと思う方をお待ちしています。
- 入会申し込み方法：入会申込書を事務局宛送付。詳しくは事務局（TEL025-270-7017）にお問い合わせ下さい。

新潟港の開港事情

新潟港は開港 140 年を迎える。開港当時の新潟港はどんな「みなとまち新潟」だったのでしょうか。昔を知り、その良さを未来につなげるため、開港時代にタイムスリップしてみましょう。



何故新潟港が開港5港に選ばれたか？

1858年（安政5年）アメリカ、オランダ、ロシア、イギリスと修好通商条約締結。函館、神奈川（横浜）、兵庫（神戸）、長崎そして新潟港が開港5港に指定されました。諸外国から日本海側に1港欲しいという要求に対し幕府は新潟港を推薦したのです。当時幕府は、新潟町を日本海沿岸の海防拠点とするため、新潟を直轄領とし、初代奉行川村精兵衛修就が為政し、新潟の基礎を築きました。

選ばれたポイント

各国が新潟港は信濃川の河口港で水深が浅くて大型船が入港できず、安全な停泊地がないので七尾港に換えるよう陳情されたが、幕府はその要求を入れなかった。その理由は…

①直轄天領地

新潟は、直轄天領地で幕府の命令が行き届きやすい場所であった。



②町人の多い町が良い

七尾港は、加賀藩領なので横浜の生麦事件^{※注1}のようなことが起こってはならない。新潟は、町人の町であるからその心配は少ない。

③京都に近くない港が望ましい

時の孝明天皇が京都に近い湊に外国船の入港に反対の意向を示した。



④新潟の男は平和主義

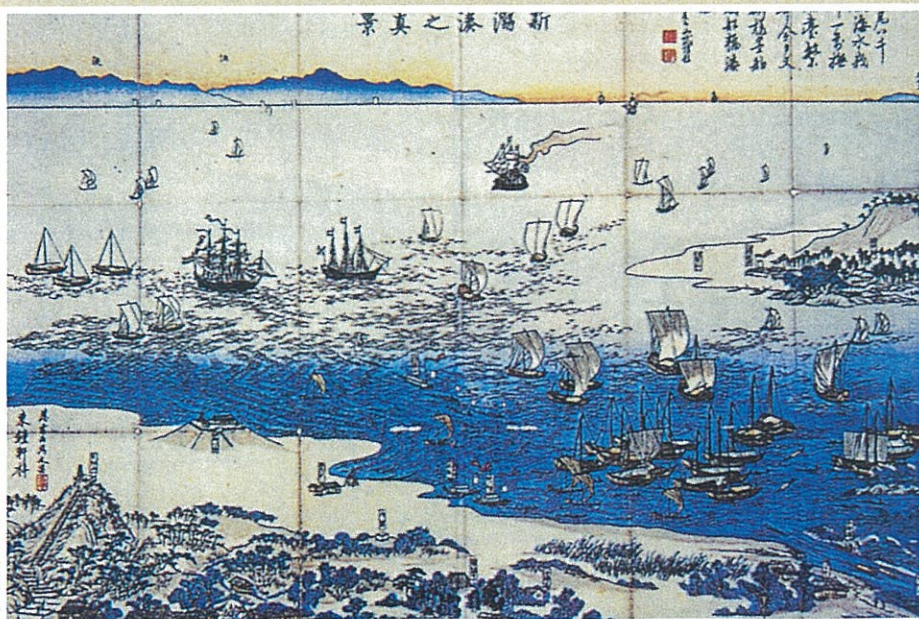
新潟の男は穏健で争いを好まない。



⑤キリシタン対策

キリシタン対策として、新潟の町は寺の数が多く信者も多いことから、キリスト教の広まる心配は少ないと思われた。

1867年（慶応3年）10月 各国は、佐渡夷港（両津港）を補助港として使うことで開港に同意し、翌年3月開港予定であったが、戊辰戦争が起これ、明治に改元後の1868年（明治元年）11月19日新潟港は正式に開港した。



生麦事件^{※注1}

江戸時代末期の文久2年8月21日（1862年9月14日）、薩摩藩主の父・島津久光の行列が武蔵国橋本郡生麦村（現横浜市鶴見区生麦）を通行中、馬に乗って行列に紛れ込んだ4人のイギリス人の1人が警護の武士に切り殺された。幕末の動乱期に起こった外国人殺傷事件は、賠償問題から薩英戦争にまで発展、その後の日本外交に大きな影響を与えた。

新潟が5港に選ばれるということが諸外国に伝わると、翌安政6年4月、新潟を訪れた最初の船はロシアの「ジキット号」とオランダの「バーリー号」であった。

新潟湊之真景（新潟県立図書館 所蔵）

新潟市の発展は開港から

開港場としての施設設備

新潟を開港場にふさわしい「文明開化」の町にすることも政府や新潟県・新潟町にとって急務でした。

1872年（明治5年）6月 楠本正隆県令赴任、町の開化策を矢継ぎ早に実施し、同年7月「教諭文」布告。

新潟港は北国一の要地で、開港場の一つであり、国内からも外国からも商人が集まるところとなりました。

文明開化まちづくり

新潟市の発展の礎は開港場に指定されたことから始まりました。新潟が開港場に指定され、1870年（明治3年）3月、水原町から新潟町に県庁が移されたのも開港場が大きく影響しました。

その後も、開港場にふさわしいまちづくりを進めた楠本正隆県令、貿易不振を乗り越え北洋漁業基地、大河津分水整備、港湾整備に取り組み、新潟港は発展を遂げたのです。

主な輸入品

- ・ビール
- ・シャンパン
- ・赤砂糖



- ・ライフル



他にも、カーペットや傘など沢山の品が輸入されました。



運上所（税関）の開設

1869年（明治2年）10月 開港場の必須要件である運上所（税関）は、信濃川の川岸を埋め立て、石庫（いしくら）、土蔵、荷揚げ場などを伴う施設が完成した。

【新潟灯台】

- 初代 1869年（明治2年）12月
点灯 木組檣上に灯火機設置
- 2代目 1877年（明治10年）2月
船見町の高台に新築・移転
- 3代目 1882年（明治15年）10月
立て替え
- 4代目 1925年（大正4年）6月
西突堤先端に設置

新潟開港前後の年表

（一八七三）	（一八七二）	（一八七〇）	（一八六九）	（一八五九）	（一八五八）	（一八四〇）
明治六	明治五	明治三	明治二	安政六	安政五	天保四
新潟運上所を新潟税関に改称 新潟遊園（白山公園）開園	新潟県令 楠本正隆 赴任	三月水原県廃止、新潟県復活 県庁は新潟町に移転	七月越後府は水原県に改め、新潟県廃止 十月運上所（税関）開設、貿易が開始された。	新潟港に初めて黒船が渡来	修好通商条約締結により新潟は五港（函館・新潟・神奈川・兵庫・長崎）の一つに指定される。	幕府は新潟町を日本海沿岸の海防拠点にするため、直轄領として初代奉行川村精兵衛が善政を行った。



新潟税関の図（銅谷白洋画）



初代の灯明台



新堀四ツ橋の盆踊り（銅谷白洋画 新潟市郷土資料館旧蔵）

訪ねてみよう！

今も残る

「湊町の風情」

【庶民の生活】

政府は、明治4年(1871年)身分差別を解消する手段、人々を欧化することを目的とし、まげを切って散髪してよいと布告しました。(散髪の強制)

また、当時、街造り、街の美化等を重視して、社寺境内での公園設立を奨励した明治6年(1873年)の太政官布告に基づいて、政府から公園地の認可を得て、同年に日本で最初の公園の一つとして開園した新潟遊園は、後に白山公園と呼ばれるようになりました。

当時は回船問屋の多くが大川前通に店を構えて、運上所に上がった船の貨物は天渡船や舢舨に積み替えられて町の中に運ばれ、町からは移出貨物が船に運ばれました。

開港時の「みなとまち新潟」はどんな町だったのか？
また、「水の都」とは？

楠本は、明治6年(1873年)1番堀～5番堀・西堀(寺町堀)・東堀(片原堀)・早川堀・宮浦堀・蔵所堀・他門川等を整理し、これらを中心に小路、通り等の道路、町名が整いました。このときに新潟市の中心部の町名がほぼ定まったと言われています。



今に伝わる名残りは？

①水戸教公園



①水戸教公園：

新潟税関(運上所)、湊を出入りする船の誘導に当たった水戸教(水先案内)をものがたる。

こま

②湊稲荷神社と高麗犬：

神社は、信濃川左岸のかつての船つなぎ場近くに位置し、水商売や海運業の人に多く信仰され、道楽稲荷とも呼ばれている。創立は享保元年(1716年)と伝えられている。また、高麗犬は花崗岩製で、嘉永7(1854年・11月、安政元)年奉納の銘がある。像と台座の間に回転軸が入れてあり、像が回転するようになっている。この像を回して祈ると願いがかなうといわれ、他に例を見ない習俗を伴う高麗犬である。



③西堀の風景



③西堀と東堀：

湊から運ばれる荷物の運搬に使われた、西堀、東堀それぞれの堀が埋められて、現在は幅広い道路となっている。また、現在旧税関脇に残されている早川堀がある。

④鍋茶屋通り：

鍋茶屋は弘化4年(1846年)の創業と伝えられている。創業当時、すっぽん鍋が名物料理であったことから「鍋茶屋」の名となった。火災により、当時のものは残っていないが、正面右手の木造二階建ての棟は明治43年の建築。



■その昔、明暦(1655年～1658年)のころ

川に並行した道を「通り」といい、そこへ直角に交わる道を「小路」と名付けました。そこに住んでいた碓谷四郎衛門という商人から名をとって「碓谷小路」となった。

昔は信濃川を「大川」と呼んでいたの、大川前という地名ができ現在に残っている。

■新潟港の貿易と航路

- ・明治初年の海運は、江戸時代と同じく日本型帆船である弁財船
 - ・明治5年日本国郵便汽船会社が設立
 - ・代わって三菱会社が新潟港に進出
- 明治9年から東回りと西回りの日本海沿岸航路開設、明治12年4月には新潟支店を設置、明治13年6月には貿易金融業務を担当する三菱為替店新潟支店

当時のみなとまち新潟

開港のシンボル ■ 旧新潟税関庁舎



新潟だけ五港の中で残っています。昭和46年に国の重要文化財に指定されたので「旧新潟税関」は新潟港開港から続く歴史の建造物であり、「新潟港開港記念館」ともいえるでしょう。

■ 文明開化と新潟町

【新潟町の取り締まりの強化】

明治5年(1872年)6月、楠本正隆が二代目の県令として着任し、「市中心得書」を発し厳重な取り締まりを宣言しました。開港後、新潟町の治安維持と外国人の警備のため、これまでの目明かしや町回りに変わり羅卒(らそつ、今でいう警察官)を配置し取り締まりました。

しかし、新潟町民が規則を守らないため、翌年4月には「違式かい違条例」(県の規則で明治版軽犯罪法)を施行し、羅卒による治安維持強化に努めました。



明治初期の古町通一・二番町(新潟市史 中編) 中央・左に立つは羅卒

■ 町名の由来

運上所の周囲に広がる低湿地や砂丘地を町の有力者に屋敷地として分譲して開発させた。その土地には買い受けた者にちなんだ町名がつけました。早川正利の早川町、本間哲太郎の本間町、山田町、窪田町、水戸教を務める伊藤仁太郎の船見町。付船宿と舟大工たちが開発を引き受けた入船町などがあります。



新潟町絵図(文政年間:1818年~1830年)
新潟市郷土資料館旧蔵

■ 堀と通り

早川堀・観音橋／排水や水運のための堀(赤坂堀、早川堀、本間堀)／信濃川と他門川をつなぐ二本の堀(南新堀・北新堀)／信濃川から川の流れをまっすぐ短い距離で一番堀・西堀へ通す宮浦堀を掘らせた／新潟の町は、信濃川に並行する大川前、本町、片原、古町、寺町。運上所と大川前通りを結ぶ港町通り／礎町通り／他門川に沿った下大川前通り

■ 新潟市市章



明治22年(1889年)4月1日、市制が施行され、新潟市が全国39市の一つとして誕生しました。

市章は明治41年3月(1908年)に制定されました。市章には、港を表す錨、開港五港を表す五、越後を表す雪環の三つがデザインされています。

みなとまち再発見!!

「銅像」・「石碑」めぐり

まちを歩いていると思わぬ発見があります。「おや!こんなところにこんなものが!」と新しい発見があるでしょう。

「みなとまち再発見!」第2回は、まちで見かけた新潟開港に関する「銅像・石碑」を紹介します。

「楠本正隆像」

所在地 新潟市中央区白山公園内
建立者 平成元年三月
新潟市

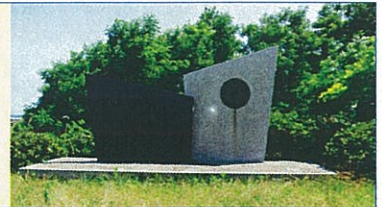
明治六年太政官布達による我が国初の公園として新潟遊園(白山公園)を創設した。銅像は楠本正隆の功績をたたえて建てられたが、この像をどちらに向けるか議論があった。信濃川に向かって思案にふける楠本県令がよいのではないかとこの意見があつたが、新潟市の将来を考える趣を出そうと言うことで市役所に向かわせたというエピソードが残っている。



「新潟港開港100年記念碑」

新潟港は、昭和42年(1967年)日本海側最初の特定重要港湾に指定されました。開港100年を記念して記念碑が建てられましたが、2ヶ所あることをご存知でしたか。

●所在地 新潟市中央区水戸教公園
●建立者 昭和四十二年
●建立者 新潟市長



●所在地 新潟市中央区電が島新潟港開港記念公園
●建立者 昭和四十七年八月
●建立者 当時の県知事 巨四郎氏の書





人が集う！にぎわい交流！ みなとオアシス新潟

「みなとオアシス」とは、海浜・旅客ターミナル・広場などみなとの施設やスペースを活用して住民参加型の継続的な地域振興に係わる取り組みが行われる、地域交流拠点施設及び地区のことです。みなと・海岸を活用して地域内外の人が交流することができる"にぎわい交流拠点"をつくり出します。さあ、みんなででかけてみよう！

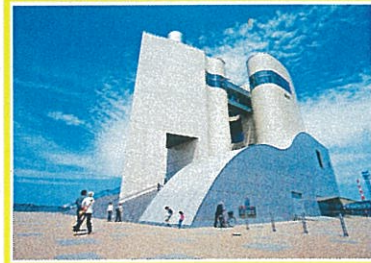
このマークが認定のマーク



4 山の下みなとランド



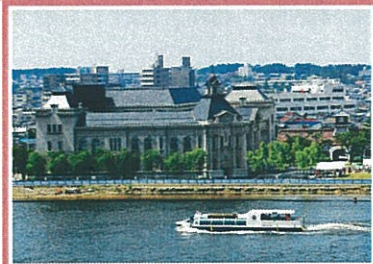
5 山の下みなとタワー



1 入船みなとタワー



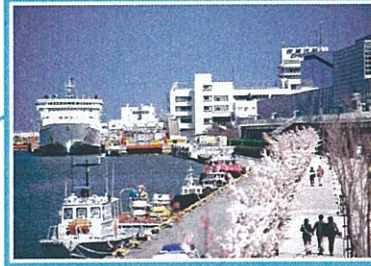
2 新潟市歴史博物館 (みなとびあ)



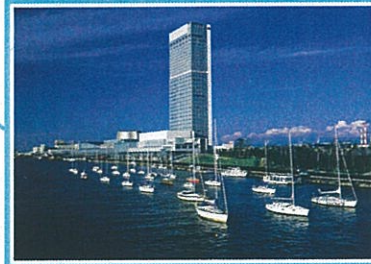
3 信濃川左岸緑地 (みなと・さかん)



6 佐渡汽船ターミナル



7 朱鷺メッセ



8 万代島緑地



公共交通機関の場合

- 山の下みなとタワー周辺へは
JR新潟駅からバスで25分
- 新潟市歴史博物館へは
JR新潟駅から観光循環バスで15分
歴史博物館前下車
- 朱鷺メッセ・佐渡汽船ターミナル周辺へは
JR新潟駅からバスで15分
- 入船みなとタワーへは
JR新潟駅からバスで20分

自動車の場合

- 山の下みなとタワー周辺へは
国道7号紫竹山I.Cから20分
- 新潟市歴史博物館へは
国道7号紫竹山I.Cから15分
- 朱鷺メッセ・佐渡汽船ターミナル周辺へは
国道7号紫竹山I.Cから20分
- 入船みなとタワーへは
国道7号紫竹山I.Cから20分

アクセス

■ みなとオアシスHP

<http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/minato-oasis/toppage.htm>

みなどオアシスQ & A

全国にはどれくらいあるの？

- 北海道地方(1ヶ所)
 - 東北地方(10ヶ所)
 - 北陸地方(5ヶ所)
 - 中部地方(2ヶ所)
 - 中国地方(3ヶ所)
 - 四国地方(9ヶ所)
 - 九州地方(3ヶ所)
- ※平成19年11月24日現在



みなどオアシス新潟



みなどオアシスってな～に？

基本サービス

すべてのみなどオアシスで共通して提供するサービスです。

情報提供 案内板、パンフレットやマップの設置、案内所、案内人(ボランティアガイドなど)など

交流スペース 待合所、フリースペース(広場など)、会議室など

休憩 待合所、トイレ

交通結節 旅客船ターミナル、駐車場、バス停、鉄道駅、レンタサイクル、タクシー、車椅子など

例えばこんな施設が使えます

- 旅客船ターミナル活用 [情報、交流スペース、待合所、トイレ]
- 港湾や海岸に隣接する「駅の道」の施設を活用
- 港付近にある公的施設を活用 [市民ホール、地域交流センター]



新潟港の北洋漁業

明治元(1868)年、北越戊辰戦争の終息後の11月19日、世界に向かって新潟港は開港した。この戦争を通してスネル兄弟等の武器陸揚を中心として、新潟港の戦略上の地政学的メリットを諸外国から着目されながらも河口港の宿命としての上流からの土砂の沈殿による大型船の入港、出港の不便は明治時代の後半まで続いた。

安政の開港五港に指定されながらも、新潟の開港のみは明治政府による開港であった。明治政府は、開明政治家、楠本正隆を県令として任命し、港に通じる道路、橋梁、金融、通信の整備を推進し、下町や他門筋を中心に漁業家や手工業者が集まり、港のヒンターランドとしての県都の産業基盤を徐々に形成していた。

北洋漁業の端緒は、それに先立つ安政三年現三条市井栗の松川弁之助の北蝦夷開拓に始まる。以来、越後人のカラフト漁場開拓、対岸露領沿岸漁業の開発の拠点には新潟となった。

明治12(1879)年、沼垂の漁師伏見半七は豊島丸に米、麦、みかん、醤油を積んで、新潟港から対岸ウラジオストックへ渡った。しかしロシア側の需要は食料品ではなく馬の飼料であった。伏見の対岸貿易は失敗に終わったが、半七は沼垂他門の漁師の体験から、対岸沿岸がサケ、マスなど北洋漁業の漁場として絶好の適地であることを見てとって帰港した。



北洋漁業の先駆者
伏見半七

漁場は、露領沿海州・カラフト・カムチャッカと拡大し、漁船も帆船～汽船・母船団～独航船と規模と機能を拡大し、特に、カムチャッカ漁場などは露領沿岸を租借し、沖合漁場を営み、更には、缶詰工場を設営し、第一次世界大戦の軍需特需としてヨーロッパへ進出し、堤静六は日魯漁業KKを経営した。

明治37～38年、日露戦争終息後のポーツマス条約の締結により、明治42年露領沿海州水産組合が設立され、組合員は北海道～新潟～東京～長崎まで全国に及び合計157名であった。

漁師の多くは、内野、赤塚、青山、新潟、松ヶ崎、島見浜、太夫浜などの漁村、農村の若者が多く、手付け金として給料の一部を受け取って出漁していったのである。

漁船の係留地は、信濃川河口近くの左岸であった。その光景は帆船の帆柱が林のように立ち並び、まるで林のごとく見えた。



信濃川左岸に停泊する北洋漁船

—この光景を「帆樫成林(はんしょうせいりん)」という—

【みなど今昔、過去の掲載】

- 創刊号：みなど 賛歌出船入り船新潟港
- 第2号：～開港前夜～新潟の開港事情～異国船来る～
- 第3号：新潟の文明開化 新潟近代化の父楠本正隆県令

～新潟港ビデオ上映会始まる～

上映会日時

- 第1回：2月24日（日）13：30～15：00
「地震について考えてみませんか」
- 第2回：4月20日（日）13：30～15：00
「地域の六畜市から歴史をたどる」

北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所と当NPO法人新潟みなとクラブは、市民の皆さまを対象に、新潟市や事務所が所蔵する「みなと」や「みなとまち」に関する歴史、文化などのビデオ上映会を2ヶ月に1回程度開催することを目標に始めたものです。

毎回テーマを絞り、「ビデオの上映」と「お話や取材報告」などで構成されており、今後も引き続き多くの皆さまの参加をお待ちしております。

◆今回は第1回のビデオ上映会についてご紹介いたします。

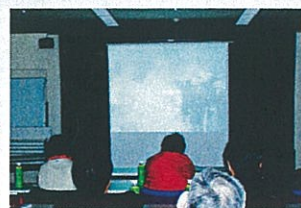
●映写：「新潟地震（30分）、地震その時どうする（22分）」

当日は春の嵐となり、北日本の日本海側を中心に大荒れの天気となりましたが、約30名の参加をいただきました。

新潟地震は、1964年（昭和39年）6月16日午後1時01分、新潟県粟島南方沖40km、深さ34kmを震源として発生したもので、地震の規模はM7.5と大きなものでした。新潟市内の建物や橋、信濃川下流の港や石油基地などは壊滅的な被害を受けました。



吉田所長によるご挨拶



新潟地震のビデオ上映

としのぼる

●お話：登石 昇氏（新潟地区コミュニティ協議会会長、諏訪神社宮司）

「新潟の始まりと新潟地震」の演題でお話をいただきました。その要旨は、

- ・新潟村の始まりは砂丘の一番海拔の高いところ（現在の日本海タワー付近）に集落を築いたところから始まる。
- ・新潟の地名の由来は、阿賀野川と信濃川の中州に二つの潟ができていて、人はそちらの方向を見て二潟と言っていた。＝新潟となったこと。
- ・昔の村の地区割り（新潟、寄居、関屋）や、当時の中心は古町ではなく、港の下町であったこと。榎谷小路はその名のとおり狭い道であったことなど。
- ・新潟地震の復旧は市内のどこから始められたことかなど、政令指定都市となった新潟市の歴史のお話を中心となっており、そこに居を構える人たちにとっては非常に興味深い話であったと思います。次の機会を楽しみにしています。



登石昇氏による「お話」

<編集後記>

創刊号（2006・秋号）発行以来3年目に入りました。ここに第4号（2008・春号）をお届けします。

今回の「みなぼーと新潟」では、新潟港開港140年を迎えるにあたり、その開港時の新潟港やみなとまち新潟の様子・今も残る港町の風情等にスポットをあててみました。

これからも「新潟みなとクラブ」では、魅力ある「みなとまちづくり」に積極的に参加していきます。

新潟みなとクラブ行事予定

◆新潟港は、1868年（明治元年）以来もうすぐ開港140年を迎えます。今後の150周年に向けた各種活動を「新潟みなとクラブ」として展開していくことにしています。

- ・新潟港ビデオ上映会の開催（2ヶ月に1回程度）
- ・第3回新潟みなと学校の開催（8月の下旬を予定）
- ・湊まち新潟歴史ウォークの開催（各種コースを設定し、今年度6回を計画しています）

いずれも新潟港湾・空港整備事務所との共催で、各種団体の協力を得ながら広報誌等でお知らせいたします。

新潟港開港

140周年の
シンボルマーク
ができました！



新潟港開港140周年
Port of Niigata 140th Anniversary

オレンジは夕日に染まる新潟の海、ブルーは世界の海、旧新潟税関庁舎のシルエット。世界と出会い、人と出会い、歴史と出会う港町「新潟」。マークには新潟港がこれからも日本の海、世界の海と繋がり、発展し続けたいという願いが込められています。

制定 社団法人 新潟港振興協会
マークのお問い合わせは同協会まで。
TEL 025-225-5851

発行：NPO法人新潟みなとクラブ

事務局：新潟市東区太平四丁目20-32 TEL 025-270-7017 FAX 025-271-4460

「みなぼーと新潟」に対する、ご意見・ご感想を上記あてにお聞かせ下さい。